

# 市政ニュース

救急医療向上

## ドクターヘリに続き、ドクターカー運行開始



▲ドクターカー関係者らによるテープカット

本部の要請で、豊岡病院救命救急センターから出動します。そして、救急現場またはあらかじめ定められたドッキング場所で消防機関の救急車に乗り移りながら病院まで搬送します。

これにより、ドクターヘリと同じように医師による治療開始までの時間が半減し、救命率の向上や後遺症の軽減が期待されます。

なお、ドッキング場所は、幹線道路沿いの道の駅や公園駐車場など安全に駐車できる場所を選定しています。但馬地域全体で132カ所、うち市内には60カ所を指定しています。



▲ドクターカー(無線機や医療資機材を搭載した四輪駆動車)

公立豊岡病院救命救急センターでは、ドクターヘリに続きドクターカーが配備され、12月5日から運行が開始されました。

ドクターカーは、ドクターヘリが悪天候などで運航できない場合、午前8時半から日没30分前までの時間、但馬5市町の範囲を運行します。

今回、導入されたドクターカーは、普通乗用車に赤色灯やサイレンを装備し緊急走行を可能とし、医師、看護師、専属の運転手が乗り、各消防

## 炊き出しの応援協定

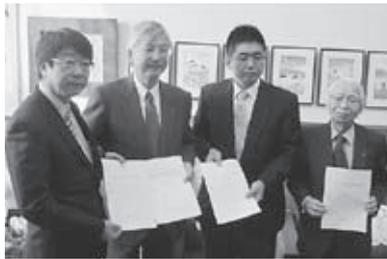
### 災害時における物資の提供に関する応援協定を締結

12月2日、市は竹野地域にある3施設、(株)奥城崎シーサイドホテル、(財)休暇村協会休暇村竹野海岸、(株)北前館と災害時に飲食物などの提供(炊き出し)を受ける災害応援協定を締結しました。

市では、これまでスーパーマーケットなどと食品などの提供を受ける協定を結んでいます。が、炊き出しの応援協定は初めてのことです。

今回の協定で、ライフラインが寸断された災害時でも十

分な調理能力と備蓄物資のある施設から炊き出しの提供が受けられるほか、施設内のトイレや風呂なども提供されます。



▲調印した中貝市長と岩井美晴さん(奥城崎シーサイドホテル)、和田慎一さん(休暇村竹野海岸)、岡崎國男さん(北前館)(左から)

## 誰でも集える活動施設

### 日高地区公民館に県民交流広場竣工

県の「県民交流広場事業」で進めていた日高地区公民館の県民交流広場が完成し、11月14日竣工式を開催しました。

県民交流広場整備のほか、大会議室、調理室、研修室、活動室なども併せて改修されました。

当日は、地域の老人クラブやボランティアなどにより、もちつき、お茶席、豚汁の提

供やバルーンアート実演、ローチ作り体験などが行われ、完成を祝いました。



▲子どもたちもお祝いの歌を披露

## 主な市政の動き

- |     |     |  |
|-----|-----|--|
| 12月 | 1日  | 除雪隊発隊式   |
|     | 2日  | 平成21年度 豊岡市環境報告書を作成                                 |
|     | 3日  | 災害時における物資の提供に関する応援協定調印式                            |
|     | 4日  | 豊岡市高病原性鳥インフルエンザ警戒本部設置                              |
|     | 5日  | 県道日高竹野線山本バイパス・藤井バイパス開通式                            |
|     | 13日 | ひょうご森のまつり 2010(14日)                                |
|     | 14日 | 日高地区公民館県民交流広場竣工式                                   |
|     | 20日 | 仲田光成記念第10回豊岡全国かな書展(23日)                            |
|     | 22日 | 中日本海交流会議   |
|     | 25日 | 市議会(定例会)開会(12月17日)                                 |
| 11月 | 12日 | 市政懇談会(竹野、15日 日高、18日 出石、但東、19日 城崎、24日 豊岡) ひょうご森のまつり |
|     | 5日  | ドクターカー運行開始式  |

「生きものとの共生を進めよう」

小野小学校の児童が「こいがたじども生きもの会議」で発表

11月13日、小野小学校の児童が「こいがたじども生きもの会議」(新潟市)に参加し、「コウノトリと一緒に生きる環境づくり」を発表しました。同校の児童の発表内容は、5、6年生全員で調べたもの。「通学路や教室からコウノトリが見える」、「コウノトリ育む農法の田んぼで生きもの調査をしたら、小さな生きものがたくさんいてびっくりした」

発表の後に行われた意見交換では、3市の小学生によって「生きものを大切に」、「活動に参加する」、「環境を守る」などの発表すると、会場から驚きの声が上がりました。会議では、佐渡市や新潟市の小学生の発表もあり、小野小学校の児童は、「佐渡市の小学生が東京でトキのお米を売りたいと言ったことが印象的だった」と話していました。



▲佐渡市の小学生との生きもの調査の様子も発表

宇宙ステーション補給機の愛称「ここのとり」命名を祝福！

市役所本庁舎に懸垂幕掲揚と小中学校から応援メッセージ送信

国際宇宙ステーションに重要な物資を運ぶ補給機(HTV)の愛称が「ここのとり」に決定したことを祝い、12月1日、市庁舎に懸垂幕を掲揚しました。

定したものです。補給機「ここのとり」は、H・2Bロケット2号機に搭載され、来年1月20日に種子島宇宙センター(鹿児島県熊毛郡南種子)から打上げ予定です。

公募により決まった愛称は、「ここのとり」は、『赤ん坊』や『幸せ』など大切なものを運ぶイメージを持つことから、宇宙ステーションに重要な物資を運ぶ補給機の任務を的確に表している」ということで決

また、市立小・中学校全校で、宇宙航空研究開発機構(JAXA)に応援メッセージを送る取組みを行っています。送ったメッセージは、JAXA



ホームページの応援メッセージコーナーで紹介されています。ホームページアドレス <http://www.jaxa.jp/>

中貝市長の徒然日記 38

空飛ぶせえるすまん

米を売り歩いていきます。コウノトリのお米です。先日、宮崎県綾町でコウノトリを巡る取組みを講演しました。綾町は、70年代から町を挙げて有機農業に取り組んできた町です。コウノトリの野生復帰を訴え始めたころからお手本として私の心にあります。その会場に、綾町の農産物を扱っている沖縄のスーパー「サンエー」の社長がおられました。

感動しました。ぜひコウノトリ米を扱いたいです。早速JAXAに話をつなぎ、年末から販売が始まります。東京でも、私の講演を聴いて豊岡に共感したエッセイストが、「明治屋」で扱ってほしいとアプローチをされました。お守りを渡し、お礼を言っている女性です。中貝さん、常務が会うと言っておられますが、行かれますか？お米、扱うと言っておられます。電話が入った時、ちょうど

東京の日本橋にご飯をメイランディッシュにしているレスが見つけました。養父市の蛇紋岩米、佐渡のトキと暮らす里米などもあり、土鍋で一合ずつ炊いてくれます。早速行ってコウノトリ米を注文。思わず膝を打つ美味しさでした。店長にあいさつし、コウノトリのお守りと箸置きを渡し、後日コウノトリのお酒を送りました。よければ、お店に出してください。最近オープンした三越銀座店でもコウノトリ米が売られています。よく売れている」とのことでした。お店の方に「お守りを渡し、お礼を言っている女性です。本業の合間に、ちよつとし

